

# 片麻痺患者の 間歇自己導尿手技 自立に向けての指導 ～障害受容と多職種連携を通して～

医療法人社団生和会

周南リハビリテーション病院

清水朝来子 河村春代

和田崇 御書正宏 藤井真紀子

S H U N A N   R E H A B I L I T A T I O N   H O S P I T A L

医療法人社団生和会

# はじめに

# 左片麻痺

# 神經因性膀胱

# 間歇導尿必要

# 自宅退院

# 自己導尿？

# バルン留置？

# I 倫理的配慮

- ・発表にあたり、事例患者本人に  
症例の取り扱い、プライバシー保護  
について文書と口頭で説明を行い  
同意を得る
- ・院内倫理委員会にて審査を受け、  
承認を得る

## Ⅱ 方法

・事例紹介 60歳代 女性

病名-脳梗塞

既往歴-高血圧症

職業-無職(3年前まで看護師勤務)

家族構成-配偶者と2人暮らし

配偶者の入院付添い中に発症

# Ⅲ アセスメントの概要

- 障害の受容過程

- 配偶者と共に悲観的な発言
- ADL自立度が高い患者の介助を拒否
- 病室内で3度の転倒

ショック状態

## 回復への期待

- 自己導尿が今後の生活に必要なことが受け入れられない
- 水分過剰摂取（3日間）

- 「少しでも自尿が出るのに悔しい」
- 尿閉に対し、今後カテーテル留置または、自己導尿が必要になる

悲嘆

防衛

- 移動・トイレ動作が自立
- 自由な時間にトイレへ行くことができる

- 
- 自己導尿手技獲得
  - 自宅での環境設定  
を患者自身が行う

最終適応



# IV 自己導尿手技練習の実際

## ① 自己導尿受入れの準備

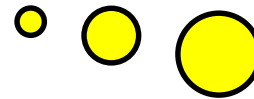
ネラトンカテーテルではなく、  
ピュールキャス(女性にやさしい導  
尿用カテーテル)を使用し、看護師が  
導尿開始

カテーテルに慣れて  
欲しい！



## ② 体位・鏡位置・消毒方法練習開始

- ・「股を開く」、「鏡の位置設定」、  
「消毒方法」の確認



## ③ 尿道口開口練習

- ・カテーテルの準備は自立
- ・右手のみで開口し、カテーテルの  
挿入練習

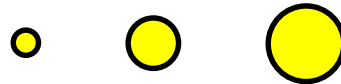
ベッドで同じ  
姿勢を練習

## ④ 尿回収練習

- ・尿回収を可能とする為、カテーテルをペットボトルキャップに装着する
- ・ペットボトルの重みで挿入困難  
⇒OTとペットボトル把持練習

挿入しかけてもカテーテルが  
滑落してしまう！！

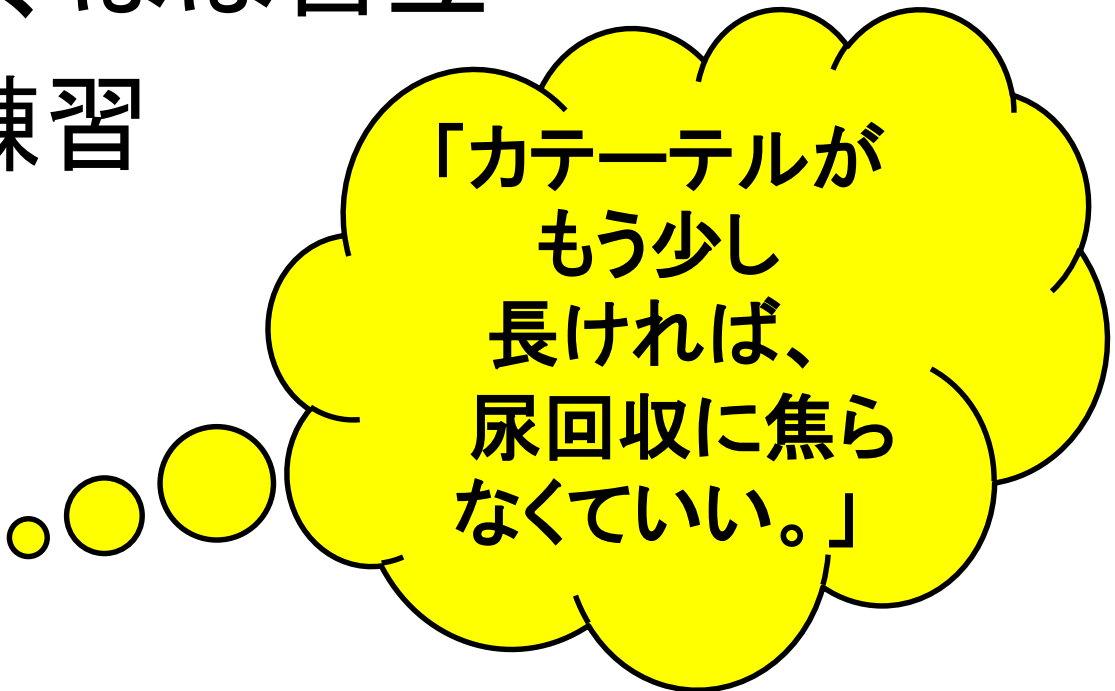
- ・尿回収可能でも、キャップにカテーテルの装着が困難



「導尿介助は  
主人に頼みた  
くない。」

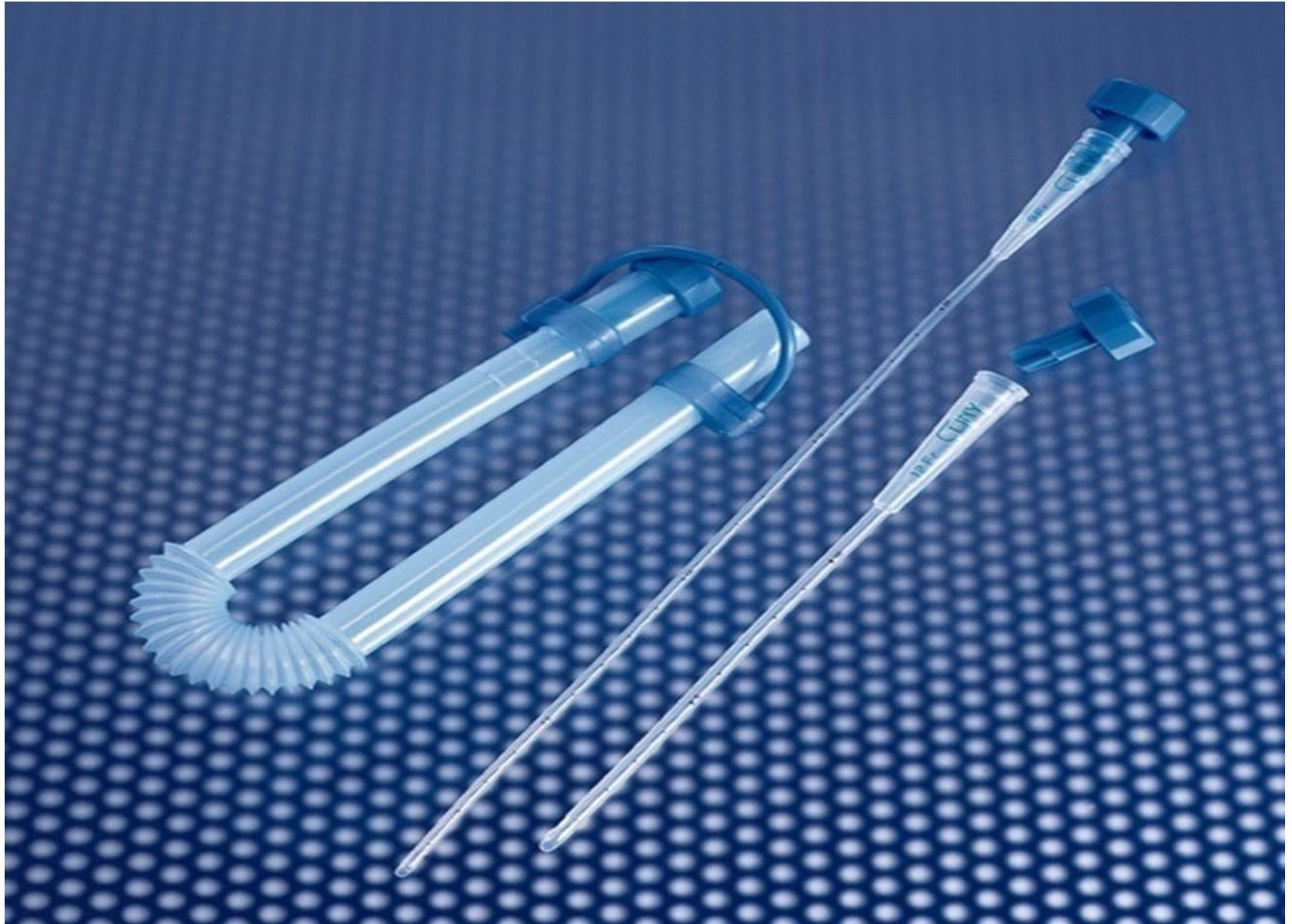
- ・カテーテルを挿入しながら先端を尿器にかけて少しずつずらしていく方法を練習

- 鏡を見ながら、ほぼ自立  
尿の破棄を練習



「カテーテルが  
もう少し  
長ければ、  
尿回収に焦ら  
なくていい。」

- ピュールキヤス12.5cm⇒  
セフティカテ16.5cmに変更





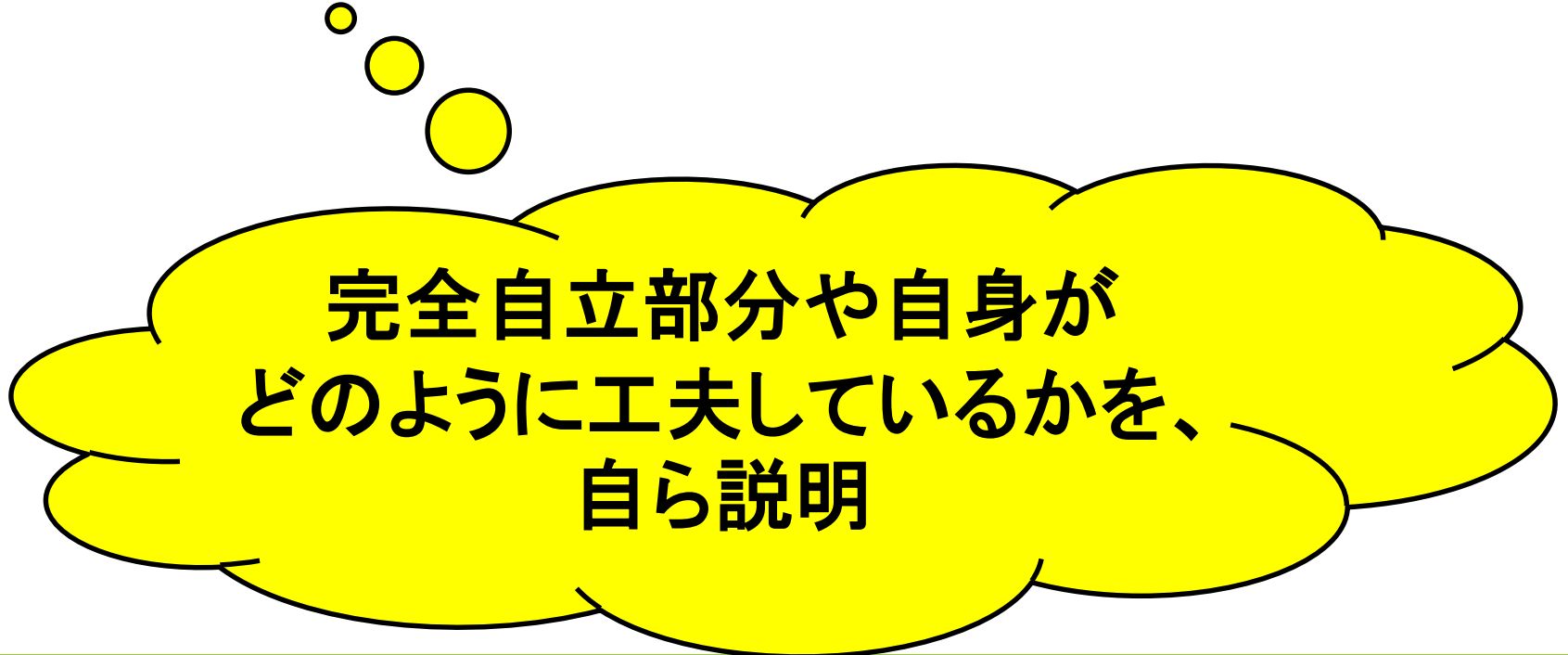




## ⑤ 退院準備

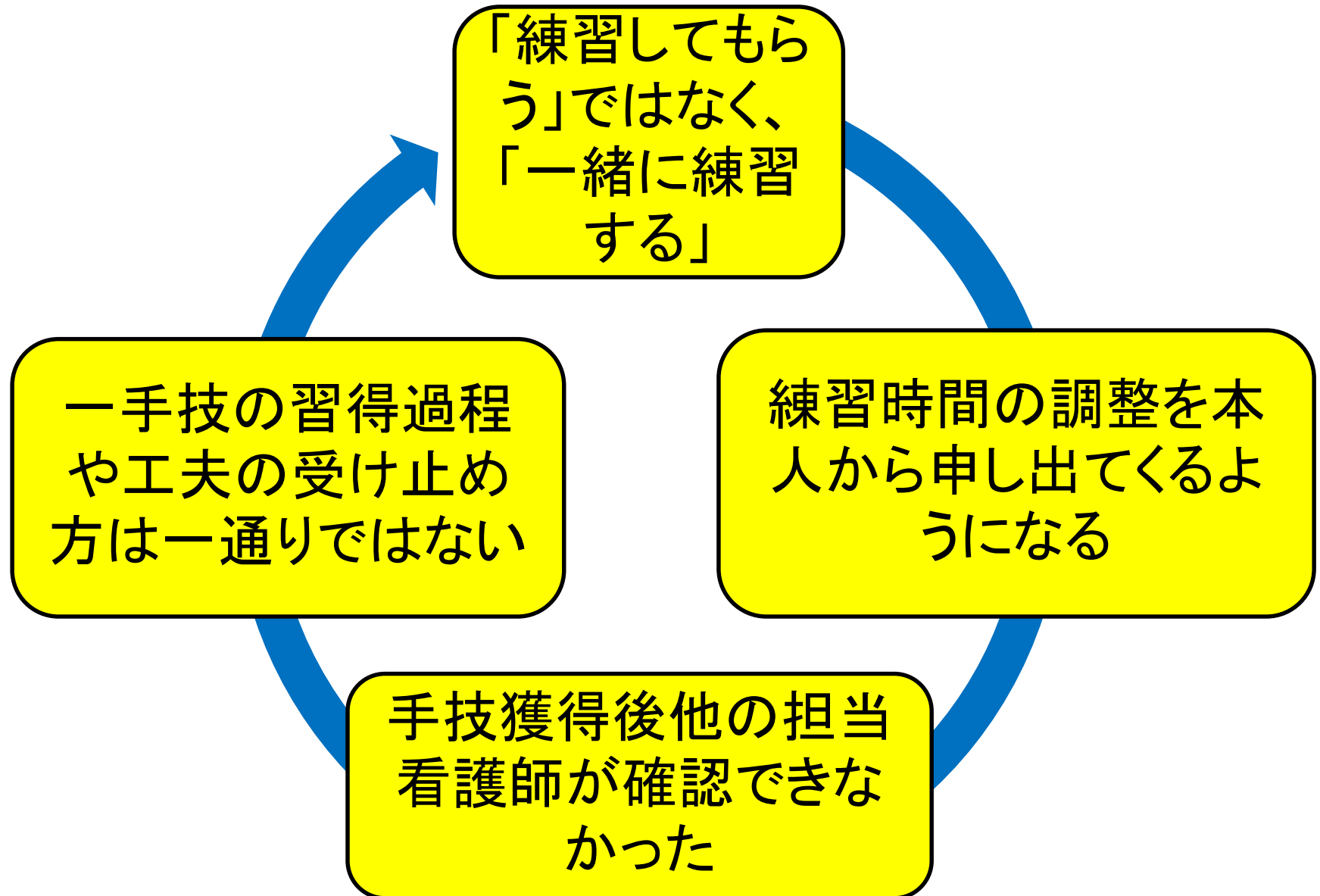
- ・練習と同時に、家屋調査により  
自宅での導尿環境設定確認
- ・担当ケアマネージャーは男性だが、  
訪問看護師は女性のみで依頼
- ・必要な消毒綿、潤滑液、尿器の購入  
準備

- 自己導尿手順、必要物品の準備  
状況、自宅での環境設定を  
本人と共に訪問看護師へ説明



完全自立部分や自身が  
どのように工夫しているかを、  
自ら説明

# V 考察（振り返り・反省）



手技練習に積極的になってきた頃から他スタッフも交えて工夫や検討を行っていく必要があったか？

情報共有と協働が効果的な援助方法を生む

## VI 引用・参考文献

- 渡辺宏美：受け持ち看護師の役割を果たせない要因-看護師の意識調査を通して-、第37回日本看護学会論文集（看護総合）、P110-112、2006
- 厚生労働省（2010年）：チーム医療の推進について（チーム医療の推進に関する検討会 報告書）、2014年4月21日
- 松本光子編：クオリティケアのための看護方式-プライマリーナースングとモジュール継続受持方式を中心に-（第2版）、P161、南江堂、1997

# ご清聴、ありがとうございました

